

Soshin

PRESS 2025



TM
Department of General Medicine
Hiroshima University Hospital

広島大学病院
総合内科・総合診療科
ニュースレター

vol.6



広島大学病院総合内科・総合診療科からのご挨拶

新年度のご挨拶

平素より教室活動にご支援いただき、誠にありがとうございます。教室を代表して新年度のご挨拶とご報告を申し上げます。

年度が変わり、教室も新たな体制で診療・教育・研究に励んでおります。今年度は新たに4名の新入局者を迎えることができました。いずれも将来有望な若者です。

本誌やホームページ、SNSなどを通じてみなさまにご挨拶ができればと思います。ご指導の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

また、2月に開催した第30回日本病院総合診療医学会総会では、合計1,123名の登録者があり、これまでにない盛会となりました。多大なご支援をいただき、改めて御礼を申し上げます。今回の総会は「総診はひとつ」というテーマで開催しました。総合診療領域においては専門医制度を支える基幹学会がなく、若手を育成するシ

ステムは発展途上です。この総会を機に、総合診療専門医育成制度が成熟していくことを願います。

さらには、総合診療医センターの運営基盤となっております厚労省支援事業「令和7年度 総合的な診療能力を有する医師養成拠点の推進事業」についても本学の採択が決まり、センター事業も無事継続できることになりました。漢方診療センターも留学生・研修生が増え、全国屈指の施設に成長しました。国立大学病院では全国3番目となる診療科昇格を目指して、日々頑張っています。

教室を取り巻く環境は日々変わっていますが、総合医への社会ニーズは変わらず絶大です。「優秀な総合医を育成する」という教室唯一のミッションを遂行すべく、引き続き努力いたします。変わらぬご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

Masanori Ito

■ 広島大学病院 総合内科/総合診療科 教授

伊藤 公訓

学術総会報告

“総診はひとつ”の精神で

第30回 日本病院総合診療医学会 in 広島

Daisuke Miyamori 宮森 大輔
■ 実行委員長

このたび、広島にて開催されました「日本病院総合診療医学会 第30回記念大会」において、実行委員長を務めさせていただきました。記念すべき節目の大会を、日頃よりご支援いただいている地域・関連病院の先生方と共に迎えられたことを、心より感謝申し上げます。

本大会では「共に進もう 総診はひとつ」をスローガンに掲げ、日本プライマリ・ケア連合学会（JPCA）冬季セミナーとの合同開催という新たな試みに挑戦しました。大会長・伊藤の温かく的確なリーダーシップのもと、実行委員・両学会の運営チームが力を合わせて準備を進め、無事に会期を終えることができました。

今回は200を超える演題応募、そして近年では最多となる1150名以上の参加者を広島に迎えることができ、大変活気ある学会となりました。地元開催ということもあり、多くの周辺病院の先生方に、演題発表、座長、当日運営など多方面でご協力を賜り、学会の充実と円滑な運営に大きく貢献いただきましたこと、改めて心より御礼申し上げます。

特に若手部会や専門委員会の企画を通じては、学会統合に向けた若手会員の思いや願いが率直に語られ、3学

会間の垣根を越えた交流が自然に生まれました。こうしたつながりが、次世代の総合診療をより強固なものにしていく確かな土台となることを実感しています。

また、全国からお越しいただいた多くの先生方に、学会という枠を越えて広島街の魅力、あたたかな人のつながり、そして地域医療の現場を少しでも感じていただけたことは、地元として大変誇らしく嬉しいことでした。今後も引き続き、広島総合診療を地域全体で盛り上げていければと思っております。

一方で、合同懇親会のスタイルの違いへの対応、3日間の開催によるスタッフ・参加者双方への負担、さらに両学会事務局間の調整に予想以上の時間を要した点など、今後の課題も明確となりました。これらの経験は、次回以降の学会運営をさらによいものにしていくための貴重な学びとして捉えております。

今回の学会を通して得られた出会いや対話が、地域医療、そして総合診療のさらなる発展につながっていくことを願いつつ、ささやかながらご報告と御礼を申し上げます。



初めての壇上発表を経験して

Naomitsu Akimoto 秋本 尚光



今回、私は初めて現地会場で壇上に立ち、学会発表を行いました。これまで何度か学会発表の経験はありましたが、すべてがコロナ禍でのZoom形式だったため、対面での発表は初めての経験でした。

Zoomでの発表では、画面越しに話すこともあって聴衆の反応が分かりづらく、淡々と進む印象がありました。多少の緊張はあっても、ある程度落ち着いてこなせていたように思います。ところが、今回は壇上に立った瞬間から空気がまるで違いました。目の前にはたくさんの聴衆、会場には独特の熱気と緊張感。視線の集まる中、「ああ、今まさに自分は発表しているんだ」と強く実感しました。

私はもともと緊張しやすいタイプで、人前に立つと頭が真っ白になってしまうことがあります。今回もその不

安があったので、壇上へ向かう前には「みんな、かばちゃだ…」と、自分なりの方法で気持ちを整えました。

案の定、発表直後は緊張で頭が混乱しかけましたが、原稿を読み進めるうちに少しずつ落ち着きを取り戻し、次第に話にも熱が入ってきました。それは、会場が真剣に話を聞いてくれ、頷きや表情などの反応を返してくれていたからだと思います。こうしたリアクションが、発表者の背中をそっと押してくれるのだと、今回あらためて感じました。

この経験を通して、対面だからこそ得られる「聞いてくれている実感」や「場の一体感」の大切さに気づきました。そして、これは診療の現場でも同じことが言えると思います。医師がしっかりと反応を返すことで、患者さんは「ちゃんと聞いてもらえている」と感じ、安心や満足につながるのではないのでしょうか。

今回の発表は、私にとって学びと気づきの多い、貴重な機会となりました。今後の診療や発表活動にも、今回の経験をしっかりと活かしていきたいと思います。



座長初体験記

Sachi Nagasaka 長坂 早知

「どの分野の座長を務めますか？」と声をかけられた時、思わず耳を疑いました。座長とは経験豊富な先生方が担う役割だと思っていたからです。臨床もまだまだ未熟で、学会発表どころか参加すら長くしていない私が、まさかの座長…。ただ、やると決まった以上は、やるしかありません。情報源は850字の抄録のみ。まずは病名から調べ、症例報告を読み漁り、周囲に助けを求めながら理解を深めました。皆さん本当に優しく、丁寧に教えてくださいました。当日は緊張でいっぱいでしたが、宮森先生の助けもあり、質問を準備でき、座長としての役割

も把握できました。本番では戸惑う場面もありましたが、予習のおかげで内容を追うことができ、質疑応答も何とか務まりました。座長経験を通じて、学会参加の意義を実感し、大変貴重な学びとなりました。今後も学会参加する際には、座長になったつもりで予習した上で聴講し、深い学びを得られるよう尽力したいです。



社会実装を見据えた研究活動

Keishi Kanno 菅野 啓司
■ 診療教授 / 研究長

広島大学病院は、臨床研究中核病院の認定取得を目指し、医師主導臨床研究の推進に病院全体で取り組んでいます。臨床研究中核病院とは、高品質かつ信頼性の高い臨床研究を全国的に牽引する中核的機関と位置づけられ、学内で創出されたシーズをアカデミア主導で企業導出・創薬化へと展開できる研究体制の構築が求められます。そのため、ワクチンや医薬品の製造・品質管理を担うPSI GMP教育研究センターをはじめ、研究基盤となる施設リソースの整備が進められています。あわせて、人

的資源の育成を目的として、PMDAや厚生労働省への人材派遣も行われています。今後の大学病院における研究は、研究室単位で完結する時代から、社会実装を視野に入れた実践的かつ戦略的な研究活動へと転換が求められます。総合内科・総合診療科としても、その動向に取り残されることなく、学術的な視野と柔軟な発想を兼ね備えた次世代の人材育成に力を注いでいく所存です。

一步一步着実に 総合診療の輪が広がっています

Daisuke Haratake 原武 大介
■ 特命助教 / 医局長 / 総合診療専門研修プログラム副責任者

平素より当科の運営にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。昨年の第4回総合診療専門医認定試験では当プログラムの修了生1名が合格いたしました。毎年コンスタントに合格者を輩出できておりますのも、専攻医をご指導くださる先生方をはじめ、日ごろより当科を支えてくださる皆さまのお力添えの賜物と、心より感謝申し上げます。

本年度は新たに3名の専攻医を当プログラムに迎えることができました。今後も、若手医師に対し総合診療の魅力を伝え、その輪を少しでも広げていけるよう微力な

がら尽力してまいります。当科で実習・研修を行った学生や研修医からは「学びが多いのはもちろんのこと、医局の雰囲気非常好い」との声を多くいただいております。専攻医の勉強会も、専攻医による自主的な運営へと徐々に移行しつつあります。これまで諸先輩方が築いてこられた温かな雰囲気を大切にしながら、若いエネルギーに満ちた医局となるよう、プログラムおよび医局の運営に努めてまいります。

今後とも、変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

広島大学病院 総合診療外来のご案内

Daisuke Miyamori 宮森 大輔
■ 診療講師 / 外来医長

～多様な疾患に柔軟に対応する、質の高い総合医療体制を地域の皆様へ～

広島大学病院総合診療外来では、診断や治療に難渋する症例をはじめ、幅広い疾患に対応可能な総合医療体制を整え、地域の先生方と密接に連携しながら、質の高い医療提供に努めております。患者様お一人おひとりの背景や生活状況にも目を配り、「患者様に寄り添う医療」を大切にされた診療を実践しています。

当科では、総合診療・家庭医療・救急など、多様な専門性をもつ医師がチームとなり、臓器横断的・多角的な視点で病態を把握し、個別化された最適な治療方針を策

定しております。患者様の主訴に捉われず、全身の症状や背景を丁寧に聴取・評価することで、包括的な診療を目指します。

また、地域の医療機関と連携し、診療情報の円滑な共有や紹介後のフォローアップにも力を入れております。ご紹介は通常地域連携経路に加え、当日紹介も対応可能です。ご不明点がございましたら、いつでも担当医までお気軽にご連絡ください。

増加する入院患者とチーム医療・教育への取り組み： 救急診療体制の変更

Shuhei Yoshida 吉田 秀平
■診療講師 / 病棟医長

自身が病棟医長を拝命し、4年目に入りました。2024年度から大学病院の内科系当直の体制が変更になった影響もあり、数名だった入院患者数は徐々に増加しています。更に年末年始の広島市内救急医療体制の逼迫も影響し、2025年1月以降は入院患者が常に10人程度で推移するようになりました。診断困難例に加え、多疾患併存状態の高齢者で高度なマネージメント・処置を要する患者さんが増えてきました。また、4名の専攻医が

ローテーションを行い、毎朝のカンファレンスでスタッフを含め、方針を確認しながら診療を進めてきました。学生や研修医にも、入院患者のプレゼンテーションをしてもらう機会も設けています。学生・研修医・専攻医の教育を重要視しつつ、より質を高く、更には他科とも協働した診療を提供できるように精進して参ります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

初期臨床研修医に 総合診療の魅力を全力で伝えてまいります

Yuya Shigenobu 重信 友宇也
■特命助教

大変お世話になっております。初期臨床研修教育担当の重信友宇也です。

昨年度も院外研修におきまして、先生方には多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。例年以上に研修医の満足度も高く、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

大学病院におきましては、院内研修のカリキュラムの改変にも取り組み、カンファレンスや回診などの内容も一層充実いたしました。科内における教育の基盤が着実に醸成されてきているのを感じております。

また、昨年4月に開設したInstagramアカウントは、

1年で約1,500フォロワーにまで拡大し、多くの皆さまから好意的なご意見を頂戴しております。

学生から初期研修、そして専門研修へと続く、シームレスな教育体制の構築を目指し、ひろしまCGMや広島県との連携のもと、多くの若手医師に総合診療の魅力を発信してまいります。

引き続きのご指導・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお申し上げます。

Instagramで日々の様子を発信中！
ぜひご覧ください



教務通信 2025

Kotaro Ikeda 池田 晃太郎
■助教 / 教務担当

平素より当科の学生教育にご協力頂き、誠にありがとうございます。昨年度は臨床実習Ⅱ（医学科6年生）において実習期間の大幅な変更を行わせて頂きました。学生からの評判が非常によく、先生方のご指導のお陰と存じます。本当にありがとうございます。今年度は臨床実習Ⅰ（医学科5年生）の週間スケジュールを改善し、より学びの大きいカリキュラムにして参ります。コミュニケーション学（医学科1年生）におきましても、講義内

容の見直しを段階的に行う予定としております。昨年度試験的に開始した症候診断治療学（医学科4年生）の講義は今年度も継続し、幅広い学年に総合診療の魅力を発信して参ります。また私事ではありますが、2025年4月より助教を拝命致しました。微力ながらこれまで以上に臨床・教育・研究のすべてに注力していく所存ですので、引き続きご指導ご鞭撻を賜れば幸甚に存じます。今年度も何卒よろしくお申し上げます。

漢方診療センター

活動 漢方診療センターの現在とこれから— 報告 地域医療・教育・国際連携を通して

Akihiro Kawahara 河原 章浩
■漢方診療センター 助教

漢方診療センターは、2021年に現センター長・小川恵子が就任して以来、活動の幅を広げております。

臨床において、外来患者数は、就任当初の約80名/月から、現在は約200名/月に増加し、地域の皆様や他診療科からも必要とされる部門へと成長しています。また大学病院では珍しい鍼灸師も在籍し、医師と連携して病棟での緩和医療に貢献しています。

卒前教育としては医学科チューターや教養ゼミも新たに受け持ち、学生教育にも注力しております。

また、国際交流にも積極的に取り組み、留学生の

受け入れや、中国・ベトナムの大学とMOUの締結しました。

2024年度には伊藤公訓先生を大会長とする第30回病院総合医学会が盛況のうちに終了し、当教室も実技セミナーを担当し、病院総合医における漢方診療の可能性を広げました。

今後は臨床研究をさらに推進し、地域社会に一層貢献できる部門となるよう努めてまいります。

引き続き、どうぞお気軽にご紹介賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ひろしま
HIROSHIMA Cgm
CENTER OF GENERAL MEDICINE

広島総合診療医養成プロジェクト

広島大学病院総合診療医センター

活動 Tamaki Tojo 東條 環樹
■センター長
報告 Wakako Harada 原田 和歌子
■副センター長

令和5年10月に開設した広島大学病院総合診療医センターはおかげさまで3年目を迎えることができました。広島県内外の関係者の皆様に大変感謝しております。

広島県が全国第2位の無医地区数を有することは皆様ご存知と思います。都市部にも地域医療の課題は存在し、高齢化・多死社会、医療費の適正化などこれから日本が直面する難局に対して、総合診療にかかる期待は高まっています。これから若く優秀な総合診療医をAll Hiroshimaで育成し、共に総合診療を盛り上げていきたいと思っています。

現在センターで実施している事業として、①県



内の主要医療機関（専門研修プログラム基幹施設含む）に個人情報に対して安全性の高い遠隔診療支援、コンサルティングシステム（通称ORIZURU）設置・活用、②研修医、専攻医、指導医を対象とした講演会、勉強会の企画・実施、③行政、県内総合診療専門研修8プログラム（責任者）との定期的な情報共有、をすでに行なっており、今後はさらに医学生・研修医教育にも力を入れていく予定です。広島総合診療充実のためにも引き続き皆様の御協力、御支援よろしくお願いたします。

霞キャンパスに来られる際には、是非お立ち寄りください。

海外学会発表報告

The Obesity Week 2024

いつも大変お世話になっております！
2024年11月に米国テキサス州サンアントニオで開催された
The Obesity Week 2024 に参加しましたので、レポートさせていただきます！

Yuya Shigenobu 重信 友宇也
■特命助教

サンアントニオは西部開拓時代の面影を色濃く残す街で、アメリカ、スペイン、ドイツなど多彩な文化が入り交じっています。市内を流れるサンアントニオ川沿いのリバーウォークにはカフェやレストランが軒を連ね、散歩するだけでとても楽しかったです！夜のライトアップは「北米のベニス」と呼ばれるだけあって、本当に美しく印象的でした。。。一方ダウンタウンはいかにもアメリカらしい新旧の建物が立ち並び、まるでテーマパークに迷い込んだかのような非日常感を味わえました。アメリカといえばやはり肉！ですが、テキサス州はTex-Mexというメキシコ料理から派生した独自の食文化があります！有名どころではタコス、ナチョス、エンチラダなど！いずれもボリューム満点で、一日に二食が限界だったほどです。次回はシーフードやテキサスBBQにも挑戦したいと思います。

さて、肝心の学会では、世界最大級の肥満専門学会らしく、基礎研究から臨床、政策まで幅広いテーマが取り上げられていました。私は「Adipocyte-Specific IntS6-Deficient Mouse Model Shows Tolerance to High-Fat Diet-Induced Obesity」という演題でポスター発表を行いました。国際学会での発表は初めてでしたが、他国の研究者と直接ディスカッションできたことは大きな刺激になりました。海外での発表は視野を広げる絶好の機会だと実感したので、後輩の皆さんにもぜひ挑戦してほしいです。

最後になりましたが、ご指導くださいました菅野先生をはじめ共同研究者の先生方、そして発表準備を全面的にサポートしてくださった大谷先生に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。



研修病院紹介

総合診療専門研修プログラム連携施設のご紹介

藝州ネットワーク総合診療専門研修プログラム ほか

地方独立行政法人 広島市立病院機構

広島市立北部医療センター
安佐市民病院Ryutarō Masaki 正木 龍太郎
■内科・総合診療科 副部長

広島市立北部医療センター安佐市民病院は、広島県北西部地域を中心に、地域医療の充実と医師の育成を目指す研修医療機関です。広島大学病院総合診療プログラムとも連携しており、卒業生の一部は現在も大学病院で教育職やホスピタリストとして第一線で働いています。特徴として、救急総合診療や入院医療 (Hospitalist)、超音波検査技術の習得など実践的なスキルを体系的に学べます。提携している複数の医療機関でのローテーションを通じて多様な症例を経験し、オンラインツールを活用した広域的な学びも可能です。診療所から病院まで幅広く対応できる総合診療医を目指す研修環境を目指しており、アットホームな雰囲気のもと、若手医師同士の意見交換や多職種カンファレンスを通じて、仲間とともに成長できる環境を提供しています。さらに、Webカンファレンスや勉強会など、学びを楽しむ工夫も随所にあります。指導体制も充実しており、経験豊富な指導医が初療から退院まで丁寧にサポートしています。救急医療の現場での手技や診断力向上を図りながら、フィードバックを通じてスキルアップを目指せます。

地域医療に貢献したい医師や幅広い診療スキルを習得したい方に最適な研修医療機関です。

広島大学病院総合診療専門研修プログラム

地方独立行政法人 広島市立病院機構

広島市立舟入市民病院

Yuka Kikuchi 菊地 由花
■総合診療科副部長 内科副部長

当院は2024年4月に総合診療科を新たに新設し、総合診療専門医・指導医が2名在籍しています。さらに、今年から専攻医の佐々木萌花先生も加わり、診療体制に厚みが増しています。地域に根差した病院として、臓器や疾患にとらわれず「何でも診る」ことを理念としており、直接来院された方や救急搬送症例はもちろん、地域の医療機関からの紹介を外来・入院ともに幅広く受け入れています。

当科の特徴としては複雑困難事例も多く、急性期からリハビリ、在宅療養支援まで包括的に対応を行う必要があります。そこで、開設時よりチーム制を導入し、全員がお互いに不足する部分を補いながら、より良い治療ができる仕組みづくりを推進しています。毎日のカンファレンスでエビデンスに基づく治療方針の決定と共有を行いつつ、業務中もリアルタイムに協議できる環境としてLINE Worksを導入しています。休日回診は当番制とし、完全オフコール日を設定するなど、女性医師も含めた全ての医師が無理なく持続可能な働き方を実現できる環境を提供しています。ここでもLINE Worksを活用し、何か相談がある場合、メンバーが必ず解決策を示すことで専攻医にも心理的安全性を担保しています。



(研修中の専攻医の感想)

病棟での研修を通じて、疾患の治療のみならず、退院支援に向けた患者の背景理解や生活環境・社会資源の調整方法についても学んでいます。困った時は、指導医にすぐに相談できる体制が整っており、安心して研修に取り組んでいます。

OB 活動報告

少子高齢化地域における家庭医療のかたち —友田ファミリークリニックの取り組み

友田 真司 Shinji Tomota
友田ファミリークリニック



広島大学病院総合内科・総合診療科、および同門会の先生方にはいつもご高配を賜り、深く感謝申し上げます。2023年に岩国市にありました友田クリニックを継承し、友田ファミリークリニックとして運営しております、友田真司と申します。

私は地元が広島市で、修道高校を卒業しました。大学は2012年に京都府立医科大学を卒業し、大阪府堺市の耳原総合病院で初期研修を終了しました。広島市民病院の麻酔集中治療科で全身管理を学んだ後、広島大学病院総合内科・総合診療科の家庭医療専門医プログラムに参加しました。大学病院の他、安佐市民病院、吉島病院、はしもと内科で研修をさせていただきました。プログラム終了後は呉共済病院で勤務しました。研修医の頃から、特定の臓器や疾患に特化するのではなく、広い年齢や領域の診療に関わりたいという気持ちがあり、麻酔集中治療科や総合診療科の門戸を叩きました。

友田ファミリークリニックに移動してからは、小児から成人まで受け入れる、家庭医療の実践を目指しています。最初の年は、15歳以下の小児患者の割合は全体の2割弱ほどでした。最近では15歳以下の小児患者割合は4割ほどになりました。子、親、祖父母と3世代で受診してくださる家庭も複数いらっしゃるようになり、ファミリークリニックらしい患者層になってきました。

友田ファミリークリニックのある岩国医療圏は、2015～2020年の人口増減率は-5.51%、高齢化率

35.6%の典型的な少子高齢化、人口減少傾向の地域です。高次医療機関は国立岩国医療センターの一か所しかなく、特に救急疾患については診療科や疾患によっては他医療圏の病院への紹介を余儀なくされる場合もあります。当院でも扁桃周囲膿瘍の救急症例をJA広島総合病院に受け入れていただく事例がありました。地方都市ではよくあることではありますが、地理的、心理的に紹介のハードルが医師患者ともに高くなるため、どこまで自院で管理するか、どのタイミングで高次医療機関へ紹介するかなど、家庭医療プログラムで学んだことを総動員して診療を行っています。

当院の特色として、0歳の頭のかたち外来があります。この外来では乳児の位置的頭蓋変形による斜頭症や短頭症に対する介入を行っています。大都市圏ではこれを実施しているクリニックも複数ありますが、数年前まで中国地方では広島大学病院や山口大学病院などの大学病院が行っているのみであり、地理的制約から受診や治療をあきらめている家庭があるのではないかと考え、中国地方のクリニックとしては初めて0歳の頭のかたち外来を開設しました。山口県東部や広島県西部を中心にこの1年間で60症例ほどの診療をさせていただきました。

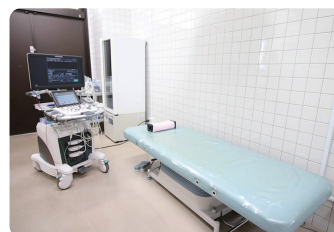
これからも、地域のニーズを探りながら、家庭医療・総合診療を実践していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



外観



診察室



発熱外来



ヘルメット

総合診療科 新スタッフ紹介



宮川 玄太郎 先生 Gentaro Miyakawa 〈医科診療医〉

- 出身地：東京都 ● 出身学校：ベルリン医科大学シャリテ ● 卒業年：2013年 ● 前の職場：広島大学病院
- 部活：水泳、サッカー ● 趣味や特技：料理、呑み歩き、サイクリング
- アピールポイント：最近になって焼酎が美味しく飲めるようになりました。 ● 休日の過ごし方：炊事洗濯掃除して整っています。
- この1年の目標：一般内科と漢方診療を勉強しつつ、医学以外にも見聞を広げたいです。
- 将来の目標：患者さんの心と身体の問題に向き合える医師になりたいです。
- みなさんに一言：関東出身ですが、広島の気候温暖風光明媚山珍海味なところに心を打たれました。何かおすすめがございましたら、ご教示いただけますでしょうか。



田中 基樹 先生 Motoki Tanaka 〈医科診療医〉

- 出身地：広島県廿日市市 ● 出身学校：広島大学 ● 卒業年：2019年 ● 前の職場：北部医療センター安佐市民病院
- 部活：陸上部 ● 趣味や特技：ポケポケ
- アピールポイント：たくさん学びたいと考えていますので、何かあれば気軽にご連絡ください。 ● 休日の過ごし方：家族で遊んでいます。
- この1年の目標：感染症について主に勉強します。可能なら指導医の勉強もしたいと考えています。
- 将来の目標：訪問診療など、在宅の医療に携わりたいです。 ● みなさんに一言：宜しくお願いします。



石橋 花 先生 Hana Ishibashi 〈医科診療医〉

- 出身地：広島県広島市 ● 出身学校：熊本大学 ● 卒業年：2021年 ● 前の職場：広島市民病院
- 部活：フットサル部、ダンス部 ● 趣味や特技：YouTubeでゲーム実況動画をみる事
- アピールポイント：前職場では、ドスのきいた声に定評がありました。 ● 休日の過ごし方：お昼寝、育児用品の物色
- この1年の目標：難症例に根気強く挑む ● 将来の目標：屈強で朗らかな総合診療医
- みなさんに一言：産休育休をいただくこととなり、ご迷惑をおかけすることと思いますが、持続可能な働き方を模索し、貢献できるよう頑張ります！



渡邊 凌平 先生 Ryohei Watanabe 〈医科診療医〉

- 出身地：広島県山県郡安芸太田町 ● 出身学校：獨協医科大学 ● 卒業年：2022年 ● 前の職場：広島西医療センター
- 部活：バドミントン部 ● 趣味や特技：飲み歩き、ライブに行くこと、スマホゲーム
- アピールポイント：いろんな人と友達になれます。 ● 休日の過ごし方：飲みに行く。予定なければ一日中寝ます。
- この1年の目標：様々な疾患について知識を増やしていく。
- 将来の目標：地域医療に貢献する。 ● みなさんに一言：精一杯頑張ります！よろしくお願いします！



木下 広志 先生 Hiroshi Kinoshita 〈漢方診療センター 鍼灸師研修生〉

- 出身地：岡山県倉敷市 ● 出身学校：岡山大学大学院（ヘルスシステム統合科学研究科） ● 卒業年：2023年
- 前の職場：鍼灸整骨院を経営中（33年目） ● 趣味や特技：バックパック（特に海外旅行）
- アピールポイント：鍼灸師としてのキャリア38年と有限会社の起業、特許を取得したことがあります。
- 休日の過ごし方：ゴルフを趣味程度にしております。ランニング（ほぼウォーキング）をします。
- この1年の目標：漢方診療センターで行われている鍼灸のプロトコルを身に付ける。
- 将来の目標：残り20年の人生をそーっと生きる。 ● みなさんに一言：なるべく空気のご迷惑をおかけしないよう頑張ります。



山崎 なつ子 先生 Natsuko Yamasaki 〈漢方診療センター 鍼灸師研修生〉

- 出身地：愛媛県 ● 出身学校：河原医療福祉専門学校 ● 卒業年：2025年 ● 前の職場：国立循環器病研究センター
- 部活：ソフトテニス部、華道部 ● 趣味や特技：お菓子作り、着物を自分で着付けることができる(自装)
- アピールポイント：チャームポイントは泣きぼくろです。(泣かさないでください…笑)
- 休日の過ごし方：ゴロゴロする、読書、犬とたわむれる、自然に触れる、友人や家族と一緒に過ごす。
- この1年の目標：素敵な鍼灸師になるためにいろんな方から吸収して、学びを深める。
- 将来の目標：医療連携できる鍼灸師になる。東洋医学のすばらしさを広めたい。
- みなさんに一言：不器用ですが一生懸命頑張ります。よろしくお願いします。

総合診療科 新入局



岸槌 雄太郎 先生 Yutaro Kishizuchi 〈現所属：広島西医療センター〉

- 出身地：広島県呉市 ● 出身学校：川崎医科大学 ● 卒業年：2023年 ● 前の職場：呉共済病院
- 部活：サッカー部 ● 趣味や特技：スポーツ観戦、ゴルフ、サッカー、サウナ、旅行、買い物、飲み会
- アピールポイント：謙虚 ● 休日の過ごし方：趣味 or 家でゆっくり
- この1年の目標：外来診療を自信もってできるようになること
- 将来の目標：内科診療に対して困らないskill、患者さんへの思いやりや任せられる人間に
- みなさんに一言：よろしくお願いします！



佐々木 萌花 先生 Moeka Sasaki 〈現所属：舟入市民病院〉

- 出身地：広島県広島市 ●出身学校：近畿大学 ●卒業年：2023年 ●前の職場：福島生協病院
- 部活：フットサル部（マネージャー） ●趣味や特技：漫画、カフェ巡り ●アピールポイント：人の話を聞くことが好きです。
- 休日の過ごし方：ショッピングをするか、甥っ子と遊んでいます。
- この1年の目標：一人一人の患者と向き合い知識や対応の幅を広げたいです。
- 将来の目標：患者の生活を支えられる医師になりたいです。
- みなさんに一言：医局の一員として成長できるよう励んでまいります、よろしくお願いたします。



住井 英里 先生 Eri Sumii 〈現所属：広島市立北部医療センター安佐市民病院〉

- 出身地：広島県福山市 ●出身学校：広島大学 ●卒業年：2023年 ●前の職場：広島市立北部医療センター安佐市民病院
- 部活：バドミントン部、空手道部 ●趣味や特技：ドラマ・映画鑑賞、ゆるキャラ、空手 ●アピールポイント：粘り強さが売りです。
- 休日の過ごし方：家でのおんびり過ごすのが好きです。
- この1年の目標：わからないことだらけの中でも一つ一つ吸収しながら最後まで走り切る。
- 将来の目標：患者さんの希望となれるような病院家庭医。
- みなさんに一言：精一杯がんばりますので、何卒よろしくお願いたします。

業績報告

〈研究費補助金・外部資金〉

1. 柿本聖樹 共同研究（丸善製薬株式会社）（2024年、45万円）3-（4-Hydroxy-3-methoxyphenyl）propionic acidの抗ウイルス評価
2. 宮森大輔 研究代表者（2024年、351万円）令和6年度革新的自殺研究推進プログラム委託研究」領域：ビッグデータ・AI等を活用した自殺対策 研究課題名：兵庫県における医療ビッグデータと法医学のデータを組み合わせたコホートデータベースを用いたリアルワールドデータによる自殺リスクの検討
3. 池田晃太郎、一般財団法人緑風会教育研究奨励賞（2024年度、20万円）、「リウマチ性多発筋痛症の臨床経過における総合診療医の診療の質の検討」
4. 吉田秀平 研究代表者（2024年、100万円）第1回「感染症に強い日本を創るプロジェクト」研究助成金、課題名：指定感染症罹患がもたらす経済的困窮の影響に関する後ろ向きコホート研究

〈論文発表〉英文のみ

1. Shigenobu Y, Miyamori D, Ikeda K, Yoshida S, Kikuchi Y, Kanno K, Saori K, M Ito. Assessing the Influence of the COVID-19 Pandemic on Gastric Cancer Mortality Risk. *Journal of Clinical Medicine*. 2024; 13(3): 715.
2. Matsunari R, Kondou H, Ishikawa N, Miyamori D, Ikegaya H. Estimation of cadaveric age in crime scenes using Raman spectroscopy. *Journal of forensic and legal medicine*. 2024; 102642.
3. Kobayashi M, Ito M, *et al*. Multicenter study of invasive gastric cancer detected after 10 years of *Helicobacter pylori* eradication in Japan: Clinical, endoscopic, and histopathologic characteristics. *DEN Open in press* 2024.
4. Kakimoto M, Nomura T, Nazmul T, Yamamoto A, Sasaki H, Higashiura A, Ito M, Ohge H, Mikage M, Ogawa KO, Sakaguchi T. In vitro anti-severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 effect of *Ephedra przewalskii* Stapf extract. *J Ethnopharmacol*. 2024 Jan 30; 319(Pt 3): 117341.
5. Mihara H, Maeda S, Azuhata T, Miyamori D, Urita Y, Yabuki T, *et al*. Revision of The Practice Guidelines for Primary Care of Acute Abdomen (GL2015) -The Usefulness of and Our Expectations for the Revisions. *JOURNAL OF HOSPITAL GENERAL MEDICINE*. 2024; 6(4): 111-7.
6. Miyamori D, Kamitani T, Yoshida S, Kikuchi Y, Shigenobu Y, Ikeda K, *et al*. Effects of the Coronavirus disease 2019 pandemic on mortality in patients with lung cancer: A multiple mediation analysis in Japan. *International journal of cancer*. 2024; 155(8): 1422-31.
7. Miyamori D, Shigemoto N, Une K, Kinoshita H, Harimoto S, Sakashita T, *et al*. Delayed onset septic pelvic thrombophlebitis treated by tissue-plasminogen activator following initial treatment for massive right ovarian vein thrombosis and methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* bacteremia: A case report. *J Obstet Gynaecol Res*. 2024; 50(8): 1408-14.
8. Yoshida S, Miyamori D, Shigenobu Y, Ikeda K, Ito M. Differential diagnosis of abdominal pain following COVID-19 infection. *JOURNAL OF HOSPITAL GENERAL MEDICINE*. 2024; 6(4): 106-10.
9. Yoshida S, Hirahara Y, Mutai R, Miyamori D, Kikuchi Y, Ikeda K, Shigenobu Y, Ito M. Impact of home visiting nurses on home death

proportion in Japan: A nationwide longitudinal ecological study. *Public Health Nurs*. 2024 Aug 30.

10. Utsumi, S., Yoshida, S., Ohshimo, S., Shime, N., & Matsumoto, M. (2024). Rate of asthma prescriptions for children and adolescents during the 2018 floods in Japan. *Pediatrics*, 154(3), e2023065381.
11. Kobayashi T, Miyamori D, Ito M. Retrospective study on clinical value and optimal use of [(18) F] FDG PET/CT for inflammation of unknown origin in Japanese patients. *Sci Rep*. 2024; 14(1): 28197.
12. Kakimoto M, Nomura T, Nazmul T, Yamamoto A, Ikeda K, Miyamori D, *et al*. In vitro to clinical efficacy: Neutralizing antibodies against severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 strains. *J Infect Chemother*. 2024; 102604.
13. Shiozaki M, Kanno K, Yonezawa S, Otani Y, Shigenobu Y, Haratake D, Murakami E, Oka S, Ito M. Integrator complex subunit 6 promotes hepatocellular steatosis via β -catenin-PPAR γ axis. *Biochim Biophys Acta Mol Cell Biol Lipids*. 2024; 1869(7): 159532.
14. Noda M, Danshiitsoodol N, Kanno K, Sugiyama M. Silk-derived sericin/fibroin mixture drink fermented with plant-derived *Lactococcus lactis* BM32-1 improves constipation and related microbiota: a randomized, double-blind, and placebo-controlled clinical trial. *Biosci Microbiota Food Health*. 2024; 43(3): 282-292.
15. Higashikawa F, Nakaniida Y, Li H, Liang L, Kanno K, Ogawa-Ochiai K, Kiuchi Y. Beneficial Effects of Ginger Extract on Eye Fatigue and Shoulder Stiffness: A Randomized, Double-Blind, and Placebo-Controlled Parallel Study. *Nutrients*. 2024; 16(16): 2715.

〈学会発表〉国際学会のみ

1. Shiozaki M, Kanno K, Yonezawa S, Otani Y, Shigenobu Y, Haratake D, Murakami D, Oka S, Ito M. Integrator complex subunit 6 promotes hepatocellular steatosis. *Digestive Disease Week 2024* (Washington DC, USA). May 2024.
2. Shigenobu Y, Otani Y, Kanno K, Yonezawa S, Shiozaki M, Haratake D, Takaki Y, Kanda A, Sotomaru Y, Nakatsu Y, Ohno H, Ito M. Adipocyte-Specific IntS6-Deficient Mouse Model Shows Tolerance to High-Fat Diet-Induced Obesity. *The Obesity Week 2024* (San Antonio, USA). November 2024.

受賞など

1. 宮森大輔（2024）。【受賞2024年3月】2024年度広島大学病院 病院長賞。2024年度、2024年度 広島大学病院。
2. 宮森大輔（2024）。【受賞2024年10月】2024年度広島大学総合内科・総合診療科同門会賞。2024年度、2024年度 広島大学病院 総合内科・総合診療科同門会総会。
3. 宮森大輔（2024）。【受賞2024年11月】日本臨床疫学会第7次年次学術大会優秀口演賞。2024年度。
4. 宮森大輔（2024）。【受賞2024年6月】日本プライマリ・ケア連合学会学術大会長賞。浜松。
5. 塩崎美波 広島大学エクセレントスチューデントスカラシップ

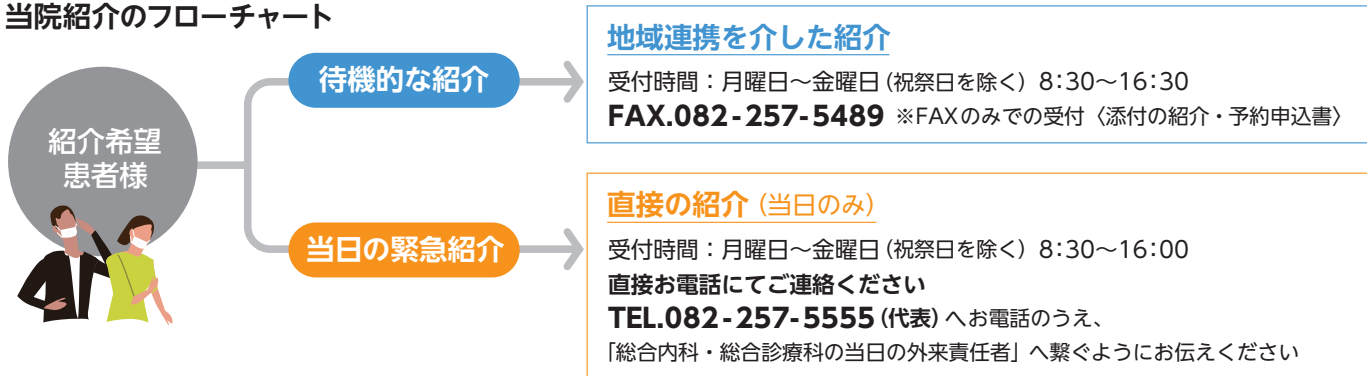
2024年度の診療実績

昨年度も、100を超える医療機関からご紹介をいただき、不明熱・体重減少・全身の痛み・しびれ・浮腫・周期性発熱など多岐にわたる症状の患者様を診療いたしました。中には、遺伝学的検査を要する症例も多数ございました。今後とも、紹介元の先生方と緊密な連携を図りながら、信頼にお応えできる医療を提供してまいります。

経過報告につきましては、担当医が責任をもって記載しておりますが、ご不明な点やご要望がございましたら、お気軽にご連絡ください。診療フローチャートにつきましては、昨年度と同様の内容でご案内いたします。

先生方のご紹介が、患者様の適切な診断・治療につながるよう、今後ともスタッフ一同尽力してまいります。何卒、変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当院紹介のフローチャート



外来診療担当表

◎総合内科・総合診療科 紹介連絡先：082-257-5555（代）

	月	火	水	木	金
総合診療科 外来	伊藤 公訓 菅野 啓司 宮森 大輔 秋本 尚光	石田 亮子 重信 友宇也 宮川 玄太郎 酒井 加奈	菅野 啓司 吉田 秀平 長坂 早知	伊藤 公訓 原武 大介 渡邊 凌平	池田 晃太郎 田中 基樹
漢方診療科	河原 章浩	小川 恵子 奥原 裕佳子	濱浪 嘉登	小川 恵子 菊本 修	河原 章浩 田村 義博



編集後記

医局長 原武 大介 / 総合診療医センター事務 山本 智恵

年間誌「Soshin Press vol.6」をご覧いただき、誠にありがとうございました。本年は例年よりも紙面を拡充し、伊藤教授が大会長を努めた「第30回日本病院総合診療医学会学術総会」の開催報告をはじめ、学会活動や業績の報告、研修連携施設の紹介など、多彩な内容を盛り込みました。取り組みや雰囲気についてより深くお伝えできる一冊になっていれば幸いです。日々の診療・教育・研究において新たな挑戦を続ける当科の「今」を、誌面を通じて少しでも感じ取っていただけたなら嬉しく思います。

表紙写真は外来診療棟の屋上で撮影いたしました。晴天の青空のもと、当科の風通しの良さや明るさを象徴するような写真となり、個人的には非常に気に入っております。さて来年はどこでとろうか…すでに頭を悩ませております。

これからも「Soshin Press」が、皆さまと当科をつなぐ懸け橋となることを願いつつ、次号に向けてまた歩みを進めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



広島大学病院総合内科・総合診療科へのご意見・ご質問は…
E-mail soshinhp@hiroshima-u.ac.jp

ホームページ <https://soshinhp.hiroshima-u.ac.jp/>
instagram <https://www.instagram.com/hiro dai.soshin>



ホームページ



Instagram

広島大学病院 総合内科・総合診療科 ニュースレター vol.6

■発行日：2025（令和7）年7月●日 ■発行：広島大学病院 総合内科・総合診療科 〒734-8551 広島市南区霞1-2-3 TEL.082-257-5460